

平成24年度第3回「あいち森と緑づくり委員会」

- 1 日 時 平成24年12月20日（木）午後1時30分から4時まで
- 2 場 所 愛知県東大手庁舎 407会議室
- 3 出席者 あいち森と緑づくり委員会（委員9人）
服部委員長、丸山副委員長、岡本委員、後藤委員、高橋委員、
長谷川委員、眞弓委員、森田委員、山口委員、
農林水産部農林基盤担当局
戸田局次長他
事務局
農林水産部、総務部、環境部、建設部
- 4 議事(要約)等 以下のとおり
 - 1) 農林水産部農林基盤担当局次長あいさつ
 - 2) 議事

○議題1「事業評価の実施状況について」

○議題1「事業評価の実施状況について」

〈事務局から資料1～3により説明〉

（委員長）

これからご意見をいただきますが、前回にはまだデータが整理中ということもあり、不足していた部分もありましたが、それを補っていただき、案という形で今回ご呈示いただきました。少し前進していると思います。これからいただいたご意見を、もう一度事務局で整理をしていただいて、また次回最終的な報告という形で進めさせていただこうと思っています。

これから、はじめにお一人ずつご意見をいただいて、その後、全体を通してディスカッションしたいと思います。今の説明、あるいは、資料は事前にも配ってありますので、ご意見、ご質問、気付かれた点について、お一方ずつご発言をいただければと思います。

（委員）この前より資料がたくさんあり、とても分かりやすくなったと思います。いくつか疑問に思うところがあります。私は環境学習に先に目が行ってしまうのですが、環境学習の参加者でも、あまり森と緑づくり税を使っていることを知らないのは問題があると思います。ちゃんと分かった上で参加、企画をして、企画者もそのことをわきまえて、PRするためにこの事業があると

いうことを知った上で事業を実施しなければならないと思いました。それから、今の仕組みだと人づくりだとかソフトの部分はやりにくいのかなと思います。例えば環境学習をする指導者を養成するとか、学校へ出向き森の大切さを伝える人をつくるとか。もっと言えば山主さんにしっかり納得してもらえば、税金を使わなくてもできる話なので、そういうことを伝えることも大事ではないか。また、私たちみたいな一般、NPO関係の人が、最初の事業だけでなく長く続けていくための拠り所になる所、建物が欲しいという訳ではないのですが、ここに行けばこういう情報にアクセスできるとか、仲間が集える拠点みたいなものがあると続けやすいかなと思います。最後のところで、今後もこのまま続けていきたいという話があります。10年は長いので、中間見直しが入ると思いますが、見直しの時点でどんなことを入れるとか、どんなことをより強く打ち出すというのが出てくると思います。環境学習だと参加する人数が多いなか、認識されてないというのは不満ですが、例えば5年経ってしまって予算や人などの達成数の枠が終わりだとなると、このままでは最後の頃はできなくなってしまうのではという不安があるので、大きな枠を見直す機会があったらいいと思います。例えばこういう委員会で話をすると良いかと思っています。最後に、資料1の3ページに環境学習という言葉がないことがとてもさみしいので、どこかに入れていただけるとありがたいと思います。

(委員) 前回は報告させてもらいましたが、少し前に新城設楽地域の森林整備に係る意見交換会をしました。そこで出てきた意見を報告させていただきたいと思います。資料にも書いてありますように、100m、300mの基準を撤廃して欲しいということがありました。地域をまとめて団地としての取り組みを行っていくためには100m、300mで区切るとまとまりにくいということもあり、撤廃をお願いしたい。それから、32ページにも載っていますが、広葉樹の植栽が出来ないか、という意見も出ていました。また、獣害対策ですが、若い木だけではなく60年生のヒノキも皮を食われていて、食害が多く現われているという意見が出ていました。公道沿いの整備ですが、地域の停電を無くしたり、ライフラインを守るために、広葉樹林の伐採も同時に行うということをして是非お願いしたい。危険防止のために、道路までの材の搬出を工事費で認めてもらえないか。水源を守ったり、水路を守ったりするためにも、河川の両サイドの整備ができないかという意見が出されていました。後で他のことも付け加えたいのでよろしくをお願いします。

(委員) 1点だけですがちょっと気になっているのが、特に人工林について、客観資料があった方がいいと思いました。今、森林・林業技術センターで間伐したところの調査をしていますので、ただ間伐面積が広がったという話だけではなく、特に森と緑づくり税は他の間伐とは違うはずなので、間伐をやった効

果のデータが載るといいと思いました。というのは、平成21年に行った所が、すでに間伐をやった方がいい状況になっているので、そうすると今後、森と緑づくり税でやった所をまたやらなくてはならないということが発生する可能性があると思います。なので、間伐のやり方などを中間のところでもう少し考えた方がいいという話がありましたが、その土台となるようなものをこれから作っていく必要があるかと思っています。今回の中でもそれが一部出てくるといいと感じました。

(委員) まず資料1の9ページで、間伐材の利用が増えてきていて、非常にいい傾向なのですが、どういったものに使っているのかを示していただけると間伐材の利用促進になるのではないかと思います。それから13ページ、都市緑化推進事業の美しい並木道再生の進捗率が162.5%と非常に高く、いい出来かと思いきや次の写真を見ると、木をボンボン植えている。これですかというところ。しかも面白いのが、市町村のアンケートで、資料3-3の3ページですが、「街路樹は必ずしも地域に愛されていない」とか、「街路樹の維持管理に多くの費用が必要なため」嫌だとか、「税を徴収してまで続けなくても良いと思う」という意見が出てくること自体に、根本的な問題があるのではないかと思います。合意をしていく仕組みが実はなく、ただ与えていくとか、この街路樹自身も今までの既存事業、公共事業をずっとされてきたと思いますが、その事業とこの森と緑づくり税の何が違うのかというところが全く見えてこない。単に税金の横づけにしか思えないようなやり方だから、きっとこういうアンケートが出てしまうのではないかと思いますので、そこを丁寧に伝えていけると、税金とは何か、税金で何をすべきかを市民側も理解できるだろうし、それを担当する行政側も意識がもっと高まっていくのではないかと思います。1つ上の緑の街並み再生の写真でも、壁面緑化は外来種がたくさん植えられている写真でしかない。アンケートでも緑が増えたから良かった、という回答がいくつかあるのですが、やはり森と緑づくり税は質の高い緑を高めていく訳で、ホットスポットである愛知県の生物多様性を高めないと交付金を使っている本来の意味がないのではないかと思います。交付金を使って何で外来種を植えなければいけないのか。絶滅危惧種がないならいいのですが、ある状況でこういったところに交付金を払っている。屋上緑化の写真にしても然りなので、もう少しここを丁寧にうまく伝えていく仕組みがないとまずいのではないかと思います。それから、17ページの環境学習については、多くの県民が自主的に市民同士で学ぶ場、という形で参加されていると思います。市民が市民の言葉として同等に聞き入れられている。行政がやって、分かったか、ではなく、理解しあえる唯一の場だと思うので、そういった意味では森と緑づくり税を広告してもらえるととてもいい仕組みだと思います。なおかつ未来の子供たちに伝えていくいい仕組みなのですが、既に進捗率が45%に達している。なおかつ全体配分額が20億円しかない

ので、本当にこのままで足りるのだろうか、と感じるところです。県税なので、県としてどうシステムアップをしていくかという、もっと横断的に部局を超えてやっていかないと。先程の道路の問題にしても、それから 21 ページの木の香る学校づくりについても、間伐材を利用したとか、愛知県の木を使って小学生に木の物を使ってもらおうという発想はいいのですが、学校側の要望が高くない。それはなぜかと言えば、ここに木を伐った人達が教えに行っている仕組みがあったのだろうか。多分木は与えているけど、例えば間伐された地主さんでもいいので、この木はこういういわれがあったのだとか、そういう仕組みを作ってください。そういった仕組みがうまく流れていかないので、ただ与えただけになってしまうのかと思う。その裏付けとして、資料 3-2 の事業関係者アンケートの 23 ページ、問 4-2 に「木製机を導入した学校の反応はいかがでしたか」の問いに、あまり反応はなかったというのがダントツです。学校側からの反応がないというのは、私からすれば論外で、これはうまく意味が理解されていないのだと思います。使う側の学校からしても、導入したいけどうまくいかないというのは、デザイン的に見ても重そうだし、私たち世代にはレトロだなと思えるデザインだと思いますが、若い子達から見たらおしゃれという感覚もなかなか見出せないのではないかな。もっと学校の要望を聞きながら、いい物を渡していける仕組みを作る考え方が必要ではないか。県税で作ったから与えてやるのではなく、作る方や、専門の方がそこに行って話をするとか、木にはどういう機能があるかを伝えていくことを同時にやっていくと、もっと波及効果が高まっていくのではないかなと思う。その辺も考えていただけると、このアンケート結果からもっといいものが出るのではないかなと思います。27 ページ (イ) の学校関係者のところに、「森林整備との結びつきが遠い」というところに表れていると思うので、これは部局を超えないとできないと思います。受け手側は一緒なのです。県からもらうという形なのです。県の中では、建設部は建設部、環境部は環境部、農林水産部は農林水産部ですので、この結果がアンケートに出てきたと思いますから、せっかくアンケートを取ったので、より良く進めていきたいと思います。それから、28 ページの森林整備事業体についても、「新規に雇用しなくても対応できる」というのが 67%あるというのは、何のために事業をしているのか、間に合っていればやらなくていいという話にもなりかねないので、この内容をもう少し丁寧に説明していただくと良いのではないかなと思いました。細かいことを言うときりがないので、非常にいいアンケートで面白い結果が出てきたと思います。

(委員) まず、この資料 1 の報告書について、どれくらいの部数を印刷して、どういう広報、公表をされるのか。HP に掲載されるとか、パンフレット、ダイジェスト版とかお考えがあったらお伺いしたい。それと 1 ページの目次ですが、第 1、第 2 章に含まれるのか、別添資料、巻末資料になるのか分かりませ

んが、他県の森林環境税の状況に触れていただけると良いと思います。実際、他県の進捗状況、継続性、経年の実績などつかめると良い参考になると思いました。12ページの里山林整備(2)成果・波及効果のところですが、里山林整備活動の状況で活動日数、延べ参加者数とありますが、なかなか唐突で理解しにくい。例えば市町村毎に何カ所あるかとか、団体数はどのように県内に偏在しているかとか示していただきたい。対象面積に対する関係性が全然見えないので、少しつかみにくい数字かと思います。次に18ページ、環境活動・環境学習について、(2)の成果・波及効果の延べ参加人数ですが、表記が13千人なので、13,000人とフルで表示していただいた方が良いと思います。それから、団体数は各市町村においてどのように分布しているのか。これはかなり偏りがあるのではないかと思いますので、そういったところも示していただきたいと思いました。22ページの木の香る学校づくり推進事業の(2)成果・波及効果のところ、写真が東栄、飛島、新城、豊根とあり、山間地域が多い印象を受けるのですが、都市部では実際少ないのかどうか。これを見ると気になってしまいます。また、その下の取扱業者数。この業者数、製品数では、どのくらい普及しているのかがつかみにくいと思うので、販売実績数はつかめないのでしょうか。製品数、業者数でまとめないで、例えば机・椅子何セットという形で表示をした方が分かりやすいのではないかと思います。27ページの(イ)学校関係者、木の香る学校づくり推進事業の実施校について、森林整備との結びつきが遠いなどの意見があったということで、先程委員からも指摘ありました。森との繋がり、木の利用についての理解を深めるというのも一方ではあるのですが、使っている方からすると、木の学校とか、木の机・椅子というのは非常に子ども達への心理的な効果もあると聞いていますので、その辺のヒアリングが大事かと思います。これは導入してすぐどうだったということではなく、1年とか2年の経過の後に、なんとなく生徒が落ち着いてきたというようなことがあれば、アピールポイントになるのではないかと思いますので、この辺のことも追跡的に調査していただければ良いと思います。29ページの(キ)机・椅子製造・販売業者のところ、愛知県産材の机・椅子を導入する学校が増えたとありますが、これは本事業によって当然増えているのでしょうか、それ以外の波及効果みたいなものもあるのでしょうか。最後に36ページ、里山林整備事業の2行目、「特に竹林対策やナラ枯れ被害が大きな問題であり、侵入竹林の初年度の駆除には多大な経費がかかる」、この記述ですが、主旨は、竹林、放置竹林の対策やナラ枯れ被害が問題だということだと思います。侵入竹林と放置竹林は、同じように多大な経費がかかると思いますので、「竹林整備」、あるいは「侵入竹林、放置竹林ともに」初年度の駆除には多大な経費がかかる……。とされた方がより正確かと思います。以上です。

(委員) アンケートと資料を見させていただいて、森と緑づくり税事業に関わ

る者として、認識度が低いというのは、私たちも努力が不足しているのではないかと反省しているところです。例えば、関わる人間は、自分のところで事業をやる場合は必ず森と緑づくり税事業のPRを最初にするとか。森林整備の時にはよく話をさせていただくのですが、森林整備以外の事業の時は話をしなかったりということもあるので、自分の反省も含めて、愛知県と連携しながら普及啓発を図っていくことが大切ではないかと思いました。それに関連して、35ページの取組成果の所、ここだけではないのですが、前々から延べ参加者人数ということがすごく気になりまして、参加者の質はどうか。というのは、延べ参加者人数では同じ方が何回も参加しているケースが非常に多いのではないかと。私も環境イベント等をやりますが、毎回見る顔ぶれは同じ方が多くて、よそのイベントに行くと同じ方がいる、ということが非常に多いので、この延べ人数に違和感を感じているところがあります。実質の人数ではどれだけかがすごく気になるところなので、今後の事業の時に、延べ人数ではなく、実際にどれだけの方が参加されたのか検証していくことが必要ではないかなと感じます。実質の参加者の方が増えると、普及啓発効果も高くなっていくのではないかと思いました。事業全体の方向性、視点のところになるのですが、アンケートの24ページの「今後検討した方が良いと思われる取組」として、一番多かったのは「防災のための森と緑づくり」、その次に「木材の積極的な利用」という回答が多かったのが気になりました。新たな視点のところで入れられている「木材の利用」を強調していただいて、新しく事業を入れろという訳でなく、そういう視点を各事業に取り入れていただいて、例えば人工林事業の整備をしたその材をこの木の香る学校づくりの椅子に使われたりとか、関連性のある木材利用がこの事業の中でもあると環境学習の面でも役に立つのではないかと感じました。それから、この事業は予算にも枠が決まっていますし、今後永久的に続くかどうか分かりません。そういう意味で考えると、この事業でやった成果が出たと言うだけでなく、この事業をやったことにより、例えば林業が促進されて、この事業のお金を投入しなくても森林整備や活動が回っていく、という視点も今後の新たな視点に取り入れていただいて、日頃考えながら事業を展開していただけると良いと感じました。

(委員) 自分が置かれているところで、私たちがやっていたことがこの中にいくつか当てはまるのではないかと思いますのでお話します。私は林業クラブという所に所属し、中山間地域で木を伐ったり、自分でやっている者の立場としてお話したいと思います。林業クラブというのは男の方だけが最初始めていたところに、私たちが入って40年位になります。そこに女性の方も入れということで、入会して会費を払って今も続いています。その中で最初は女の人たちは何をしたらいいかと考え、自分たちのことを高めようと、枝を伐ってきて花を活けたりしました。山のことも自分たちでした方がいいということで、男の

方を講師にして枝うちとか、間伐、ナタの研ぎ方とかも習いました。自分達で山へ行って教えてもらって木を伐ったりということもしました。それを続けると自分たちは上流に住んでいるから、下流の人たちにも山のことを分かって欲しいと、色んな話をして一色の漁港の女性部と、お互いに山のこと、海のことでも知ろうと交流会を持つようになりました。交流会といっても金一封何も出ませんので、自分たちの地元の物、海の方は海の物、山の方は山の物を持ってくるということで、山へ行って木を伐って、間伐なんかもしてもらって、その枝を伐り出してきてタオル掛けのハンガーを作ってもらったり、1年には1つしか出来ませんが何年かかかって、五平もちを私たち作っているのですが、五平もちの板を森林組合に用意してもらって、帯鋸の細いので型を切ったりとか、自分たちで材料も工面して、お互い交互にやりっこしてきています。タオル掛けハンガーを作った時なんかすごく喜んでいただいて、次の時に「どうでした」と聞くと、「これはこういうところで使ったら良かったよ」とか、「こうすると良いね」というのが出まして、木の枝の太い古い木を切った時に、ヒノキの枝でコースターなんかを作ると真中はすごくいい色をしていますよね。そういうので作ったコースターでネームプレートを作ったよ、とか色んなことを聞きまして、山のことを分かっていただける方が、漁港の方にもたくさんできていいなということを思いながら、今でも続いています。あとはNPO的なことに入るのではないかと思います。中学生達を山の間伐体験に、講師は自分たち林業クラブの者がやります。そこへ行って中学生を連れて来て、のこぎりを使ってやらせるのですが、未来の長い目で山のことを子ども達に分かって欲しいということで、いつも中学2年生の男子も女子も山へ連れてきて、一緒に2時間ぐらいですが間伐体験をさせて、戻った時に道で会った時にどうだったか聞くと、「良かったよ」とか、「寒かった」とか、「雨が降った後行ったから濡れて大変だった」と言いながら、子供達も山のことを分かってくれます。山の子半分位、街の子半分位という状況でやっているのですが、全然山のことを分からない子もいるのですが、山のことを分かってくれる。山のことを理解してくれるということは、大きくなっていいことだと思ってお互い手分けをしてやっています。あと11月18日、森と緑づくり体感ツアーの間伐体験に私も参加させていただいて、どんなことをここでされているのかなど。自分たちは中学生に教える時は教える立場ですが、今度は自分たちが体験させていただこうということで、自分の近くだったものですから行かせていただきました。名古屋は遠いので地元で入れて下さいということで待って入らせていただきました。若いお母さんから、子ども連れてきた人、お父さんと子どもという方たちがバス1台に乗って見えまして、寒い中とても大変でしたが、4つの班に分かれまして手鋸で森林組合の方が汗だくで実技をしてくださって、その後本当はこう伐るんですよと、チェーンソーでパッとあっという間に伐ると、子供たちから拍手が来てました。こんなに簡単に伐れるんだと。でも現実には私たちはみんな一

人1本ずつ伐りますよということで、手鋸で伐りましょうと。四苦八苦しなから教えてもらったり、伐れなかったらお父さんとお母さんとみんなで1本伐る。そしてまた子ども達が伐って楽しんで喜んで、子ども達も山のことを家に行ってお父さん、お母さんと話せるという場を作ってくれさせた、そういう体験した子供達も良かったなと思います、私たちもそばで体験させていただいても良かったです。これからもこういったことを続けていただけるととても嬉しいと思いました。

(委員)「あいち森と緑づくり事業評価報告書」は非常に硬いタイトルですね。それから、体裁を全体に見直す必要がある。これは一般の県民などに報告を配られても面白くないから、「明日の愛知の森を支えるために」とか、夢のあるような。これはまだたたき台ですが、「はじめに」がポンと書いてある。これはもう少し膨らませていただいて、こういうために、あいち森と緑づくり事業があるのだと言う方が分かりやすい。今後の方向性も少し触れていただく。まだ十分ではないけれども、今後もっと充実させていきたいというのがないと、見て下さいといっても県民に対してはなかなか見てもらえないのではないかな。全体を議論した後、まとめていただくということがあります。それと体裁について、表紙に「はじめに」があるのではなく、目次の後にでも。それから第1、第2とありますが、これは章が抜けているのかなと思うのですが。節は無くても結構ですが、ここら辺が気になる。「今後に向けて」でもいいのですが、「はじめに」に対して「おわりに」になる。これだけ色々な調査、アンケートをやったけれども、ここがもう少しやりたかったとか、項目、そういう想いを書いていただくと、行政の報告書は硬いというのがあって。それと、写真が色々載っているのですが、キャプションがない。例えば豊根村は左から右にこうなりましたと。関係者は分かりますが、どういうことをやったのか。例えば写真の撮影をしたのはいつで、こういうことがされましたとか。特に8ページの設楽町の看板ですが、ここにはこのお金を使ってこれをやりましたと書いてあるのですか。書いてあると思うのですが、それはもっと行政はアピールしなければならないところを、こんな遠目のものを撮って何が書いてあるのか分からない。アピールの仕方が下手だと。写真についてもキャプションが無いのが気になります。それは例えば11ページの下にも倒木を整備しているのだと思いますが、そういう状況が書かれていない。細かいことを言いますと、表と図がありますが、章ごとに例えば1章だったら表1-1とか表1-2とか、それぞれ番号を振りながらやるのが報告書の体裁ですね。写真のところでも図で結構ですのでまとめて、というのがあります。それからせっかくこれだけ写真があって、これも概要版を出されると思いますが、キャプションがないと見ても分らないと思います。23ページ「県民等の意識」、県民、次に事業関係者、あるいはそれぞれの名前を書くべきで、県民等という言い方はあまり良くない。30ペ

ページの「その他のアンケート」、これは何だと。これは非常に重要なところだと思いますので、「イベント・事業・参加者のアンケート」ですかね。やはり中身が分かるようなタイトルにすべきだということがあります。こういうものは色んな事業者だけでなく、県民、行政、教育関係者、森林所有者、NPO、森林組合とおられるわけで、そういうところも同じ目線で見ているのだという風に。最後ですが「今後に向けて」、これが2行というのはさみしい。今後の反省、あるいは展開も含めて人的な話、人的なネットワークとかそういうものに向けて、行政だけの要望だけでなく、県民、教育関係者、森林所有者、NPOのような人たちを出してもらおうような、こういう委員会ではなく、もうちょっと具体的なものが展開出来るようなネットワークづくりを模索していきたいとか、それと人材を養成すべきだという話が出ていましたが、インストラクター制度とか、講演会に出られたりする、ある程度知識を持っておられる、そういう人たちが行政側がうまく、こういう事業に対して積極的に関わってもらえるように、普及啓発みたいな人的な制度、硬くはないですが必要かと思います。先ほど上流、下流の話がありましたが、そういう意味ではネットワークの中にそういうところも含めて書いてもらう。これは私の個人的なところで、「地域のシンボルや景観を活かす」とありますが、もう少し詳しく天然記念物や文化財、これをやりたいという市町もありますので、バッファゾーンの森林の整備も書いていただければ。最近旭山、動物園だけでなく林業も盛んで、生まれた子どもに木の椅子をあげるとテレビでやっていました。前からやっていたのですが、この税金でどれ位出来るか分かりませんが、そういう小さい子どもに対する普及啓発、このお母さん方が一番ポイントだと思いますので、そういうものを視野に入れた事業展開。というのは、先程、委員がおっしゃった、前から言っているのですが、学校の机のデザインが悪いと思う。おしゃれというか、デザイン性みたいなものを、木材を使ったらいいというのではなく、もう少しファッション性、コンペをやってはいかがと思う。小学校1年生から6年生まで使えるような机・椅子のデザインを考えて欲しいと。旭山ではデザインを若い木工のデザイナー達が毎年違うデザインでやっている。そういう切磋琢磨もあったりして、面白いデザインが出ている。森林の質もありましたが、全般的な質の話もしていただいて、そういうものを含めて「今後に向けて」を2行ではさみしいのでせめて半ページ位思いを、これだけ税金を使うのだから、我々まだ道半ばではあるけれども、富士山でいえば3合目、5号目ですがとか書いていただいて、頂上目指すんだという意味をぜひ書いていただきたいと思います。

(委員長) ありがとうございます。それぞれの立場で色々なご意見をいただきました。前回の時に委員長はコメントがないのかと言われましたので少しだけ。気になったのは資料1に全てのところに「成果・波及効果」とあるのですが、その文章が少し短いかなと。非常に簡潔に書いてあるという点では問題な

いのですが、アンケートは非常にボリュームのある物ができあがっている。この中からたくさんの方が読み取れると思うのですが、そういう細かいところ、アンケートのいちいち細かいことを記述するという意味ではないのですが、もう少し突っ込んだ分析が出来るような気がするのです。そういうところをもう少し成果とか波及効果のところを書いていただけるといいかなと思いました。例えば色々な属性についても細かく分析されているのですが、あまりそういう記述もないように思うので、もう少しそういうのも入れていただけると分かりやすいのではないかなと思いました。それからデータが先程もご説明ありましたが、平成24年度のデータが載っているところと載っていないところと不統一になっているので、データは24年度まで出来る限り載せていただくということにしていきたい。多分今年度までの評価ということになるのかなという気がしますので、出来るだけ載せるようにしていきたい。それから、体裁についても最後の方に委員の皆さまからご意見をいただこうと思ったのですが、どういう形でこの報告書をまとめるかと。1冊に全部データ集もつけてやるのか、データは別にするのか、そしてこの報告だけが1つとしてその他はデータ集みたいな形でアンケート集そういう形にまとめるのか、それとも合作にして1つにして全部載せるのか、それから先ほど文章と図表の細かいご指摘いただいたのですが、そのバランス、分かりやすいという意味ではたくさん図表があるのはいいのですが、この図表から何が読み取れるかがきちんと書かれていないといけなと思うので、そのバランスをどうしたらいいのかということ。もし1冊で厚くなるとなかなか全部読んでいただけないので、概要集みたいなものを出さないといけなということも含めて、いずれにしる非常にしっかりデータを取られて実績もきちんと上がっているわけですから、是非報告書の中にそのことをきちんともらえるような形にしてまとめていただきたい。それで是非、これまでに他府県でもこの報告書、先行してやっているところがありますので、県の方で全て集めていただいて、チェックしていただいているのだと思います。そういうものより良いものを作っていただきたい。愛知県のもが手本になるような物を目指して作って、お金もたくさんかけているし、たくさんの方にお世話になっておりますので、そういうことも含めてそういう気持ちでまとめていただきたいなと思います。それでは委員の皆さまからいただいた質問もあったかと思いますが、事務局でお答えいただけるものがありますか。

(事務局) たくさんの方の意見をいただいたので整理して、次回の委員会だけではなく、その前に体裁も含めていろんな修正をし、事前に調整して、できれば今年度中に作るようにしたいなと思いますので、それについてはご協力お願いします。全体の話をしてみると、この森と緑づくり税がスタートした時に色々な議論があって、これまでにできなかった森と緑の整備をするというのが大前提で、それにつながる県民参加とか普及啓発のために環境活動学習や木の香る学校づ

くり推進事業などがあるという、全体の枠組みで動いています。それで質問にありましたのは、広報をどうするかということでしたが、この委員会を含めて全て公開していますので、この資料はHPに載っているのですが、最終的に出来たものをどういう風に何部印刷してというのはまだ考えていません。もう一つは今後広めてこういう成果とかやっていることを発信する取り組みをしなければいけないと思っていますので、そういうのを含めましてここに見える皆さん、活動されている方もたくさんいらっしゃいますので、是非協力していただきたいし、いろんなご意見いただいて一緒になってやっていただくとありがたいと思います。具体的にはまだこれからです。それからもうひとつ質問にはないですが、木の香る学校づくり推進事業については、普及とか啓発の取り組みをセットにしなければならないという意見があって、そういう風に報告書も課題としてまとめていますが、実際私も林務関係の職員で普及指導員がいるのですが、学校へ行って森のこととか木のことをセットで説明することをやっています。ただ十分でなくてももっとやっっていかなければならないなと思いました。それから、木が良いという反応がありますし、片方では重いとか傷つくという意見がありますので、机・椅子だけにこだわらず、有意義な取り組みであれば広げながら、普及啓発を学校と協力してセットでやっていく必要があるのではないかと思います。皆さんの意見も踏まえて、アンケートやこれまでの議論をふまえて、最後の章はまとめるつもりですが、色んなご意見を今日いただきましたので、整理して事前に皆さんにお諮りして最後の委員会前にはやるようにしたいと思っています。

(委員長) 先程のご発言の中で、質問、確認したいということがございますか。

(委員) 行政の方ではなく、委員の方にもう少しどういう内容だったのか確認したいのと、今議論の中で出た中でちょっと気になったことがあったので一言だけ。一つはPRと報告は少し分けて考える必要があるかなと。報告の位置付けという話ですが、一つはあいち森と緑づくり税を県民の方に知っていただく、こういう効果があったことを知っていただくことは必要という意味では分かりやすい。ただ一方でこれだけのお金を使った成果を、データを取ってちゃんと残しておかなければいけないということがあるので、それはそれでちゃんとしなければいけないという、考え方を二つに分ける必要があるのかなと。皆さんの意見を聞きながら、理念と結果は出ているけれど、途中の手法とかこの中でもお金をもう少しくださいとか、枠組みを変えて下さいという話がありましたが、その辺のところ、この中で一目で見られるかということそこは欠けている訳です。そういうものを含めて入れる必要があるのかもしれない。ただそうすると膨大な量になるので印刷費が重なってくるという話もありますが、インターネット上でそれを置いておくというのも一つの手かなと。それから木材利用

の話が出ていました。ただ、今の人工林に関する間伐材利用のやり方だと生産に関する話は搬出補助金の話が出てしまう訳ですが、今、市場が混乱しているように材価が安くなるのを促進することになってしまいますので、むしろ先程意見が出た木材のデザインコンペとか、需要拡大の視点をより強くしていただけるとありがたいと思います。是非生産目的の資金投入に関してはやめていただきたい。それからもう一つは委員からの話で、確かにこのアンケート、これが雇用を考えていない、これが雇用に繋がっていないという事業者が多くなっていますが、これは正解というか、事業者なら普通かと思います。補助金を頼りにして林業がこれだけガタガタになってきているので、それを促進する、それをまた違う所に求めて雇用するという事は間伐しか出来ない、だから全体の森林の整備が出来ない、人材を増やしていくことになるので、そうではなく、そこからどうするかを考えると、支援を森と緑づくり税の中でやるというのはなかなか難しいかも知れませんが、そういう考え方がいいのかなと感じました。だから、人材育成という面では税事業はきっかけづくり、一番初めの理念にあった、県民と愛知県の森を繋げる糸口ということなので、そこを重点に考えながら事業を考えるのもあるのではないかと思います。

(委員長) ありがとうございます。人材を育成していくということは非常に大事で、林業がこれからも継続してやられていくということが、今回10年やったからそれで終わったのでは何の意味も無くなってしまふ。それをどう繋いでいくか、それは人と組織というようなもの、あるいは県民のサポートがうまく絡み合っていないといけない。その辺をどうこの中で作っていくかということのきっかけ、まさにきっかけだけで完成版を作るのはとても出来ないことなので、出来るだけしっかりしたきっかけを作っていきたいということで、色々知恵を絞っていただきたいというお願いしているのかと思います。他になければ。

(事務局) 延べ人員の話で、個々の団体から出てくる報告書と、参加人員が何人という形で、他のところで出ているかどうか名簿を全部取らなければならないとなってくると個人情報的なこともあって、なかなか実際の人員数を出すのが正直言ってできなく、今までのものは一切データございません。延べ人員までしかできない。今後のこともそれを取るのかという話、なかなか難しいところかなと思っていますので、環境学習では難しいのかなと思うところがあります。ただ何年もやってみえるところは自分のところでどれだけ新規の人が入ったかというのを出示してもらうことは出来ると思いますので、そのレベルまでお許しいただければ考えられる所があるのかなと。それから知らない人、森と緑づくり税を使ってやっていることを知らないというのは伝え方が悪いのもあると思います。その辺は十分反省してやっっていかなければならないと思いまし

た。

(委員長) 他にはどうですか。

(事務局) 先ほど委員から美しい並木道再生についてご指摘いただいたのですが、先程言われた通り並木道再生については162.5%という数字が示すように、当初計画していた24箇所よりも再生してほしいという地域の要望が多く、結果上回る実績となっているということも事実です。かたや街路樹維持管理全体の問題ですが、落ち葉の問題、毛虫等の問題で苦情をたくさんいただいたり、今般の財源不足で草刈、植栽整備がままならぬ状態で、それに対して住民の方から苦情があるのも事実でして、アンケート調査、市町村担当の方が答えたのですが、そういった悩みが出たのかと思っています。行政担当者がこんな悩みでは話になりませんが、今後限られた予算で植栽管理をどうやってうまくやっていくかが大きな課題と考えています。当然、今回再生事業で出来なかったところについては市町村と協力して維持管理をしていこうと考えています。植え方についてもポンポンとなっているのですが、その辺の維持管理も頭をかすめたのかもしれませんが、今後も市町村と相談して、色々工夫できる、地域の方に愛される植栽、街路樹等を作っていきたいと考えています。

(委員) ご回答いただいてありがとうございます。毎回大体同じ回答が返ってくるなというところですが、担当者が変わるので当然かと思えます。結局、街路樹全て同じ木を植えてしまえば害虫が発生するのは当然ですし、落ち葉の問題も落ち葉をみんなでメンテナンスしていく仕組みを作ればいいのに、そこで予算が付かないから伐った方が早いと強制間伐するとか、お金がうまく回っていないと思います。税金の投入に対して。それはここで議論できることではないかもしれませんが、少し税の中で枠を広げることでその仕組みをうまく作っていく一歩になればいいと思います。実は先ほど委員から質問のあった雇用の問題ですが、私も同じ意見で、これで何かを増やせということではなく、人工林自身が補助金ずぶ漬け状態で、補助金で全部生きていたら未来が無いわけです。この税金がある時に、逆にいえば余力がある訳ですから、次のビジネスに繋がるようなことをやっていかないと、林業もたないよと、常々皆さん思っているし、多くの人も感じているところなのですが、結局そこは企業が適当にやればいいではないかと後ろ足がないので、いろんな委員会ごとにワークショップだけ同じようなのがあって、中山間地域にいっぱいお金は投入しているけれど、結局ビジネスに繋がらず同じようなアンケートが聞かされるというのを、もうそろそろ卒業しませんかという意味で、新しい一歩を踏み出すための良いアンケートだったのではないかと思います。24ページのところに「今後検討したほうが良いと思われる取組」があったのですが、「生物多様性の保全の取り

組み」と「防災のための森と緑づくり」と、「上流域の森林整備」、「広葉樹を植栽する森づくり」 どうしてこれが並列に並ぶアンケートになるだろうと思う訳です。広葉樹を植栽すればいいのであれば、スギ・ヒノキを植えたのとまた何も変わらない、50年後にコナラとアベマキしかないような森になるわけで、そうではなく生物多様性を取り組むことによって広葉樹が植える、逆に広葉樹を植えることによって生物多様性が高まっていったり、木材が積極的に利用されることによってその生物多様性が高まるようなことをしてなければいけないのに、こういうアンケートを取ると生物多様性の取り組みは3割ですから、こういう取組は後ですねとなると、街路樹の整備と同じように緑だけが繋がる。街の緑だけが付けばいいでしょというパーツ志向になってしまうので、根本的に森と緑づくり税は何のために使うのだろうか、これから世界は、愛知はどういう方向に行くのかということを考えていただくような考え方でいていただきたいと思うので、こういうアンケートをもう一度振り返っていただけるともっといいと思います。

(事務局) 先ほど説明しなかったことがあります。写真はこれからいろいろ変えます。木の香る学校づくりで山の方だけだということでしたが、街の方でもたくさん入っていますので変えていきます。それから委員が言ったように生物多様性の意見をいただいていたし、その通りだと思いますので、視点として生物多様性確保という項目で、森と緑づくりも環境活動もそういうことを考えてやるという、考え方は書きました。どういう風にしていくかはいろいろやっていかなければならないと思います。全体としまして、今後の継続の検討判断、内容検討の判断のためにまとめています。税の継続、税額に関しては私どもは言えないが、今やっている10年計画でまだやれないところがたくさん残っているので、引き続き必要だということと、いただいた意見を踏まえて内容の検討が必要だということで、まとめるという最後の結論の出口はその辺ということだと思っています。皆さんからも継続というお話をいただいていますし、県民の皆さんもそういう意向だということが分かりました。

(事務局) 前回2回目の時にも委員から屋上緑化の写真で、私も都市緑化に関わるものとして、自分が設計していたらこんな設計はしないというような思いはあります。では実際にどういう植物を誘導していくか。森と緑づくり税の元々の創設、皆さんから税を500円ととなった時の説明の中に、当然生物多様性は含まれていると思うのですが、例えば民有地緑化で屋上緑化をやる時に、事業者は最初にくらぐらいくか考えられて申請した段階で、これセダムだからススキに変えてとなると植栽地盤もかなり厚くなるし、構造材も大きくなって初期投資も変わってくるし、管理費も変わってくる。川上のところで、本来は生物多様性が主流化していれば申請する段階で考えてくださるのがそれ

が一番いいのですが、なかなかそうはいかない。例えばとりあえず、身近な緑づくりは市町村が対象になるので、そういうところできちっと生物多様性に配慮しているとか、地域生態系由来の植物を使ってとか、今、幸いにも要望の方が多いので、そういうものを優先的に採択するというような条件をつけるとか、そういうところで工夫していきたいなと思っています。ちょっと屋上緑化はすぐに生物多様性に配慮していないから補助つけないというのは乱暴かなと思っていますので、その辺は考えながらいきたいなと思います。

(委員) 是非お願いします。

(事務局) 委員のご質問に対する答えに漏れがあったかなと思います。29 ページで、机・椅子製造の販売業者のところ、これ以外にあるのかということをおっしゃられたと思います。実は項目そのものは決められている項目でアンケートしているものですから、ここからは分かりにくいのですが、今の机・椅子なども写真を見ると木ばかりを使った写真が載っているのですが、実は木ばかりでなくいわゆるスチールだとかアルミニウムだとか組み合わせたデザインのものも作られるようになってきているところが一部あります。その辺がアンケートからは見られませんが、そういうことでご承知いただければと思います。

(委員) 並木の話ですが本来は市町が、上がってくるときにどういうソフト、管理するのか、ただ木を植えるだけの補助金をもらうのではなく、今アダプト制度と各都市で進んでいるところもあるし、名古屋市はまだですが、管理の仕組みまでも県の方でしろという訳でなく、こういうやり方もあってこういう都市でやっていますよと、そういうものを前提として選んでいく。先ほど、屋上緑化の話もありましたが、そういう方向性はいると思うのです。メンテナンスは今後、お金は出さないですから、仕組みを考えて下さいということです。それから、住民が、毛虫がつくから伐れとか、落ち葉が、落葉広葉樹だったら当り前ですよ。そういうものに対して苦情があるというのが、その地域が、一つの学区内共同体がありますよね。そこで解決してもらおう仕組みですね。公園なんかだったらアメリカだったら公園委員会みたいのがあってその公園のやり方は住民に任せる。木がいらないのなら全部伐ると、極端な話ですが。この木を大きくしたいのであれば、落ち葉は当然落ちるわけで、その落ち葉を腐葉土にする。今は全部ゴミ扱いですよ。最近名古屋市はチップ化というか、ある程度腐葉土にして戻すというのをやりつつありますが、大きな流れでいえばそういうことを考えてもらって公園がある。住民が勝手な物で毛虫ついたら伐れと、子どもがケガしたらどうすると、僕は少々毛虫に刺されてもいいと思っている。そういう自然のことを知らない。あまりにも管理されすぎているから。そういうところの説得は地域社会でやってもらいたい。そういう方向性を県で

認識していただくことが必要。例えば美しい並木再生がされていますが、植えマスが広いので、ちょっとましになったかなという気がしています。壁面緑化もただ緑だったら良いというのではなく、どういう質のものを作るのか、在来種の話がありましたが、そういう取組をやるのは大いに結構です。今後どうしてメンテナンスしていくのかというところまで、出せとは言わないけどそういう方向性を書いて下さいという話はあってもいいと思うのです。それをうまくやっているところを検証していかなければならない、ここはこれだけやっているよ、こういうやり方もあるよというようなところも、今後の課題で言ってもらわなければならない。そうでないいろいろな国道で、名古屋市内の街路樹伐ってしまう。上に電線があると。何で伐ると言うと、去年も伐っていますと説明にならない国道事務所の説明で、ここの木はどうしたいのだという意味、大きく大きく育てたいのかということも地域社会の問題だと思う。あまり住民が、毛虫がつくから伐れと言うのにすぐ対応する必要はないと思っています。だからそれを説得できるだけのことを、こういうことで大きくするという話もあると思うのです。それともう1つ、僕は、林業は独立してできないと思う。速水さんみたいにうまく勉強されてやられているところはいいのですが、1つは机の話もしたのですが、間伐材をNPOが買い取って、製紙会社に持って行ってやっていくという話を前の前にしたかと思えます。そういうものに対する目配せとか、飯田市なんか環境都市宣言してペレットとか間伐材でやっていますよね。ああいうような今後どうなっていくか分かりませんが、そういうような芽が愛知県全体に種を播くような、そういう話もいるのではないかと。そのあたりは今後に向けて間伐だけして林業再生できるとは思わないので、そういう違う方向みたいなものも、ソフトの感じで考えていますよと。アイデアをくださいと。逆にこれとこれじゃなくて、別の事業の枠で1つ考えてもらったらどうか。新規事業は何かありませんかというような話、枠が次の時にないかなという気はします。これは報告書なので今までのものですが、今後に向けてはそういうものを書いてもらえたらいいかなと思います。

(委員長) いくつかご意見いただいた中で、私なりに考えたところをお話しします。人づくりについては議論していただいたので、そういうものを文章の中に落とし込んでいかなければならない。それから気になっていたのが、理念のところは森林の公益的機能の発揮とある。多分間伐して、いろんな植栽、多様性が増えたりしていろんな機能が高まっていくのだろうなどの思いがあるのですが、その辺を検証するデータというのはそういう意味だったのでしょうか。

(委員) そうです。

(委員長) そういうデータはなかなか揃えにくいのですが、跡地の森林がどう

変わっていつているか、間伐した後のデータがありますでしょうか。

(事務局) 森林・林業技術センターで施業地のモニタリングをしています。ただ、どれだけ効果があったかはなかなか難しいことで、全体的に森の管理が大事なのは確かですが、簡単に数値で出すのは難しいことだと思います。こういうことをやることによって公益的機能が確保できるという前提で、手入れが行き届かなかったところに集中的にやっているのがこの事業です。データは継続してとっていますが、すぐに評価とか数字が出るということではないです。難しいということです。

(委員) 5年では無理でしょうね。

(委員長) 5年ではちょっと確かに。

(委員) いや、すでに竹林になってしまっているところが。

(委員長) 間伐したところが竹林になっているということですか。

(委員) 田口の方に上って行く途中で、事業でやったところでそういう所が出てきている。そういう意味では植生が繁茂しているのは確かなので、確かに難しいかもしれませんが。

(事務局) 効果ではなく、現地を継続的に把握する手法を考えるべきということですか。

(委員) 本来はそうだと思います。これだけ面積、場所が広範にあってはじめてに事業をやる時に検証を行うことを前提にしていけないので、これからとっていくのはなかなか難しいことは分かります。なので、今言われた技術センターのデータだけでも、どこか一部こういう形でやっているよというだけでも載せていただけると。

(事務局) 貴重なご意見だと思います。確かに最初から検証するというのが無かったのはまずかったのかなと思います。年数が経過すれば最初に間伐した所、1年単位、先程おっしゃった5年位経ったら下層植生が多だとか、そういうことをやれば、委員が言われたような検証が多少なりともできるかと思いますので、そういうこともまた検討の中に加えていきたいと思っています。

(委員) それは諸刃の剣で、良くなった所もあるし、明るくなりすぎて竹が侵

入したとかマイナスの面もある。何が言いたいかという、やはり継続的な森林の施業をやっていかなければいけないのだということを、そういう目標があって、マイナスになったところはどうするのかと。

(委員) マイナスになったところはそれを評価して、事業のやり方を変えていくということを考えていかないと。

(委員) そういう調査があって、プラスマイナスもあって、でもそれは森林がある程度育成するには5年に1回だけやっているのでは無理だと。もうちょっと除間伐の頻度があるんだと、5年に1回、あるいは10年経ったらまたやる。この補助金は1回使ったところではできないというもどかしいところがあるので。

(委員) だからこそ今回、森と緑づくり税でやったのは確かに保安林の間伐と繋がっていると思いますが、お金の集め方とか趣旨がだいぶ自分としては違っているんだろうなと。今までの林業でない森林の生物多様性を考えての森づくりとか、そういう視点でやるのなら、今これだけサンプルが多くなってきているので、それを見ながらいいところはいい、悪いところは悪い、その次の林業の施業の形をそこから考えるのが一つの手なのかなと。せっかくこれだけサンプルがあるのだから、やらない手はないと思う。

(委員) 調査だから、そういうのはされるべき。

(委員) 税事業でやれないとしても、次の別の事業の中で、森林の間伐に対する補助金の体系が単純化し始めているので、難しいと思いますが、次に緑づくり税と離れてどういう手法を愛知県は取られていくかという考えるベースに、そういう意味では悪くても良くてもデータを蓄積して皆さんに見ていただくことが良いと思います。

(委員長) いずれにしても今調査が進んでいる途中経過ということで、最初にやられた所はそういう状況になっている所もあるのかもしれませんが、うまくいっているところもあるのかも知れませんが、データを出していただいてからでないと議論するのは難しいと思います。継続してデータを取ることだけお願いしておきたいなど。次回に、評価して将来どうするかということまでご議論いただく。何もなくて議論するのは難しいので、次回ということになるのかもしれませんが、ただ、どこかに書き込むところがあるとすれば、そういう調査も併せてやっているというのを1行入れていただければいいのかもしれない。

(事務局) お配りしました資料2の3ページになりますが、モニタリング調査をやっていることについては掲載させていただきました。それから同じように6ページに里山の調査をやっているということで記載させていただいております。

(委員長) こういうことで植生の回復調査が進んでおりますということで、記述していただいているということです。成果については触れられていませんが、今途中経過だということです。その他、木材利用についてはいろいろご意見が出てきていますので、そういう考えもあるというのを披歴しておいた方がいいのかなど。あとポイントとしてきちんと押さえて記載して欲しいというのがあればお願いしたいと思います。それから、資料2というのは資料の1の中のバックグラウンド、より詳細なデータですよ。これを要約したものが資料1の表になっているとお見受けしたのですが、この資料2も印刷して配付することになるのですか。今の植生回復のこともございますが、なにかお考えはどうなっていますか。その他の3はある程度、県民、事業者等ありますので多分印刷されると思いますが。

(事務局) 最終的な形としては今検討中です。あまり量が膨大になっても見にくいですし、薄すぎても分からないということで、どういうバランスで行くかは今後決めていきたいと思っております。

(委員長) 他に報告書の中にこれだけは忘れないで記載していただきたいということがあれば。今いろんな意見が出た中で事務局の方でご判断いただいて書き込んでいただけるものと思っております。

では委員から先程ちょっと聞いていただきたいということが。

(委員) お手元へ配らせていただいた資料2部ですが、これは森と緑づくり税を利用させていただいてやっていることを、皆さんに見てもらった方がいいかと思い、写真も付けて持ってきました。オイスカという団体で、この前フライングで看板出したところ。写真は、打合せしてまして2ページには現場の草刈、子ども達の自然学級状況、作業道を作って、子ども達や研修生が安全に山に入れるための作業。それから切捨て間伐された間伐材を使いまして、このような看板を作ったり、標柱を作ったりして報告をしました。ということで、皆さんに写真で見てもらえば一番分かるかなど。ただ何を植えた、どこにどのように植えたというのは別にあるものですから、今回はこれだけで申し訳ありませんが、現場を見てもらえば分かりますが、草を刈っているところは非常にきれいです。左奥に白いものが立っていますが、枯れた木ではなくて下の方にウッドガードで植えた木が載っています。ここはシカがものすごく出ます。ウ

ッドガードの上に出たヤマザクラの枝はほとんど食べられました。中には残っていますので、次年度環境部にお願いして、この次のガードを付けようかなと話をしているところです。この事業は来年度が最後なので、何とか頑張ってそれからのことを考えながらやっていきたいと思っています。またアイデアがあれば教えて下さい。これがこの事業でやらせていただいている環境活動の一つです。伐採跡地で植栽をやらせていただいているのですが、ここではアグリフォレスト的な植栽も考えていこうと。例えばトチノキを植えてトチノミを取り、またその花によるハチミツも採取するというような樹種の植栽、クヌギやコナラばかりが取り上げられますが、そういう木も植えてはどうだろうという話もしています。もう1枚の方は、「森と緑づくり」税で実施された切捨間伐した山林、先程の資料1の7ページに切捨間伐できれいに整備されていますが、こういう山の材を少しでも利用しようじゃないかということで、業者にこの材を買って下さいということでやった事業です。私の住んでいる地区は高齢者世帯が多いですから、スギ・ヒノキの間伐材を仲間で出材して生きがづくりをしよう。息子たちは街で生活していて田舎に帰って来ない、山の恵みも有難味も忘れられている、少しでも山に興味を持ってもらうためには、このような年寄が切捨間伐の材を出して、千円でも二千円でも稼ぎ、それをもとに孫や子どもたちと一緒に楽しい会話ができれば、生きがづくりになるのではないかと言うことで、現在は仲間・チーム作りをしております。写真にありますような人たちに講習会をやったのです。1枚目、2枚目は会社から説明を受けています。下は切捨て間伐のところに木が転がっていますが、これは廃車のシートベルトを利用して出材してきます。2枚目の裏が、シートベルトを巻いているところです。このようにシートベルトで出すと非常にやりやすいのでやっています。70歳近い方が二人でチームを組み道まで出して、それを軽トラに積んで運びました。これで皆さんいくらになったと思いますか。40年から50年生のヒノキで、大体1,200、1,300円です。

(委員) ヒノキでそんなもんですか。

(委員) はい、そんなものです。2杯で約3,000円でした。でも山で腐らせるよりはいいか、おじいさんが山出しして、子ども達との話題づくりになればいいじゃないか、それが生きがいになればいいじゃないかと。よそでは木の駅プロジェクトでやっていますが、ここは3,000円で、木の駅では6,000円でやっています。資料として皆さんに税を使った間伐の後には、このように少しでも山の人間に潤いと生きがづくりになっている、ということの紹介です。

私はこの後、この現場で学校の先生達の研修の機会に話しました。先程皆さんから出ていた机ですが、あの机をキットで用意し新入生に親子で作らせて6年間持ち上がりで使わせたらどうだという話を先生方にしました、それも良い

ですねと言っていました。その制作指導は地元のそういう関係の方に指導してもらったり、とにかく親子で作れば別に机じゃなくても下駄箱でもいいよねというようなことも言っていました。ということでやったことの紹介です。ちょっとどこかに取り入れただけであればと思います。また現地にもいらっしやっつてご指導をいただければありがたいです。

(委員長) これはちなみにこれからもずっと買っていただけるということですか。今回限りということですか。

(委員) 何とか継続しようと思っていて、今やっているのはこれをどうしたらうまくやっていけるのかということです。というのはこの会社はわざわざこの計量機を200万円位かけて作ってくれたのです。この計量機に車ごと乗って、目方を量るのですが、その運営を日曜日だけやっている。日曜日だけその会社の方が名古屋から来ていたら、人件費が出ない。その人件費をどうするかと。私達でやりましょうと言っても、私達がボランティアでやるのもおかしいじゃないかということで、今そこのところで頭を悩ませています。ちなみにその時に出していただいた方、日曜日だけやった11月の統計ですが、11月4日の日曜日3名、2名、次は2名、2名、4回ありまして全部で6名の方が軽トラで34車搬出して24トンでした。これでは企業としては継続できない。一時中止しようかとの話が出ましたが、お願いをしてこれでやめちゃ駄目だからと1月末、2月末、3月末の日曜日だけやって下さいと、継続していればそのうち増えるからと、その時誰が受付けやってくれますかということで、ボランティアで言い出しの私がやることにしました。日曜日にそこでやっていますので、見学に来てください。その時軽トラに積んで来て下さればありがたいです。

(委員長) それでは時間が無くなってきていますが、今日委員の方からいろんな意見をいただいて事務局で整理して報告書に反映していただけたと思います。これからお気づきの点がありましたら、事務局に連絡いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。それではこれで本日の議題は終了ということになります。